zoomを用いたアクティブ･ラーニングによる初年次教育（基礎ゼミ）の授業例

森　平　直　子

初年次教育とは「高等学校教育から大学における学修に移行するに当たって、大学における本格的な学修への導入、より能動的な学修に必要な方法の習得等を目的とするもの」（中央教育審議会, 2014）であり、本学では「基礎教育講座」という科目が相当し、１年次春学期の必修授業となっている。人間心理学科では、10名前後を一クラスとして専任教員１名が担当し、ゼミナール形式で行うため「基礎ゼミ」と呼ばれ、その教員が２年次までの担任となっている。一度もキャンパスに足を踏み入れることなく初めての大学の授業をすべてオンラインで受けることになった新入生の不安や孤独感を軽減し、大学での学修をスムーズに開始させる上で、2020年度の初年次教育の意義は通常以上に重要なものとなった。筆者は相互交流を重視し、毎回zoomを使ってアクティブ・ラーニングを行ったので、その授業内容を紹介する。

各回の授業内容

ゴールデンウィーク明けからの授業に先立って、まず連休前にzoomで１時間ほどの顔合わせを行った。その時点ではまだzoomが使えなかった学生１名は、LINEビデオで参加した。大学から借りることになっているPCがまだ手元にないなど、個々の学生の状況がわかった上で準備をして、授業を開始することができた。

授業は表１のスケジュールで行った。学生には、manabaに上げた配付資料を事前に印刷させ、ワークシート等には記入した上で授業に臨ませた。終了後に課す課題は、書かせる内容だけでなく、書式や提出方法を毎回変えるなどして、提出作業自体がスタディスキルを高めることにつながるように工夫した。また提出されたものについて画面共有などもしながら、授業中にコメントして、双方向型で効率良く学べるように

した。画面共有の利用は非常に教育効果が高く、オンライン授業の大きなメリットであった。また、zoomのブレイクアウトルームを利用して、４～５名の小グループでの話し合いの機会を多く持つことで、対面授業ほどではないものの、相互交流を促進することができた。レポートの書き方については、例年通りワークブック形式の教科書（桑原, 2015）を使用して、細かく指導した。３回の授業を経て提出させた1,600字のレポートは、内容よりも書式重視とすることで、難しく考えずに取り組めるようにした。学生達からは他の授業の課題で出されたレポート作成に活かすことができたと非常に好評だった。また、zoomでのプレゼンテーションは、人前での緊張が強い学生も、さほど緊張せずにできるという点で、入学後初めてのプレゼンテーションの経験をさせるには、むしろ適した方法とも思われた。

表１　各回の授業内容

回	授業内容
1	**オリエンテーション、人間心理学科での学び**：履修の仕方、カリキュラムツリー等。
2	**自己紹介**：最寄り駅、好きなこと、大学で力を入れたいことなど。後日一覧にして配付。 **Eメールのマナー**：適切でないメールの例を示し、各自で適切と思う形に修正して発表させた。授業後に担任にEメールを使ってこの日の授業の振り返りを書いて送信させた。 **オンラインストレージについて**：クラウドへのデータの保存の仕方。
3	**メールやLINEでのコミュニケーションと対面でのコミュニケーション**:2グループに分かれてメリット・デメリットについてディスカッションをしてから各グループの意見を発表。 **双方向のコミュニケーション**：ワーク「流れ星」（星野, 2003）：教員が読み上げた絵の説明を紙に書いて絵を完成させ、一方的な説明では正しく再現できず、受講生が質問をすることによって正しい絵が再現できることを体験し、あいまいなままで進めると正しい情報が得られないこと、質問して確認することの意義を学んだ。
4	**論理的な意見のまとめ方と説得力のある伝え方**:事前に「コンビニの24時間営業はやめるべきだ」「高校生の制服は廃止すべきだ」などいくつかのテーマの中から1つ選んで、主張・理由・例・結論にまとめておき、「話し手の印象を決める要素（ボディランゲージ等）」を意識しながら一人ずつ自分の主張を発表した。
5	**コンセンサス実習**「私が大切にしていること」（星野, 2007）：愛情・生き甲斐・お金等７つの言葉について、自分が大切だと思う順に番号をつけ、2グループに分かれてメンバー皆で話し合い、納得できる順位をつける体験をした。
6	**レポートの書き方(1)** レポートの構成・種類、Wordの書式設定。授業後、Wordを使って指定の書式でこの日の授業の振り返りを書かせ、manabaでファイル送信レポートとして提出させた。
7	**レポートの書き方(2)** 文献や資料の引用の仕方。レポートへの直接引用や間接引用の仕方をワークシートに記入して学んだ。授業後、論文とWEBサイトの資料のランダムなリストを引用文献リストの書き方のルールに則ってリスト化させ、manabaでファイル送信レポートとして提出させた。
8	**レポートの書き方(3)** 論理的な構成の仕方、話し言葉と書き言葉、主語と述語のねじれ等について学んだ。3回の学びを活かした形で1600字程度の報告型レポートを書いて翌週までに提出(内容よりも書式重視）。
9	**レポートの発表**：提出されたレポートを画面共有しながら、本人が音読する形で発表させた。他の学生のレポートについて何人かが感想を述べ、教員が良い点、修正した方がよい点についてコメント。
10	**レポートの発表**（前回の続き）　後半は2グループに分かれてフリートーク。その後グループで出てきた質問（期末試験について、サークルについて等）に教員や他のメンバーが答えた。
11	**ビブリオバトル**：自分が面白いと思った本を5分間で皆に紹介。一番読みたくなった本に1人2票ずつ投票してチャンプ本を決めた。
12	**まとめ**：春学期の振り返り、学科からの諸連絡（資格取得について、ゼミについて等）

初年次教育とICT

学生達からは、「毎週皆と顔を合わせて受講できて楽しかった」「大学の授業に必要なことを学んで不安が解消された」「他者の価値観に触れたり、自分の意見を人に伝える難しさや大切さを実感したりすることができた」といった感想が聞かれ、初年次教育に求められる一定の役割を果たすことができたものと考える。さらに初年次教育にICTを取り入れることは、コロナ禍での対応に留まらず、大学での学びに必要な技術になじむ機会を与えるという意味でも、意義があるものと思われる。

引用文献

桑田てるみ編（2015）学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版．実教出版
中央教育審議会（2014）新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）
星野欣生（2003）人間関係づくりトレーニング．金子書房
星野欣生（2007）職場の人間関係づくりトレーニング．金子書房